

佐藤委員（広志会）

令和5年3月2日

知事答弁実録

（教育委員会）

（問）学校図書館リニューアル事業の適切な推進について

広島県にノウハウがない、人材がないというのであれば、教育長の立場として、広島県の人材を育て、増やさなければならないのではないかと。外からアドバイザーを連れてきて終わりということでは、何も育たない。教育委員会という組織が育成を放棄していることが問題点だと思っている。

来年度で6年目になるが、全く意味のないことだと思っており、教育委員会のこういったやり方を知事部局も許している。予算は最終的に知事部局で決めている。図書館リニューアルについて、今一度、やっていいのかどうか考えるべきだと思うが、知事の所見を伺う。

（答）

図書館リニューアルについては、今、教育長から説明があったように、数年にわたって実施してきた。その中で、実際に行うのは各図書館ですから、図書館ごとに、違う図書館がやるわけで、図書館に必ずしもノウハウが溜まっていくわけではない。それをまとめる形で努力をして、教育委員会のほうはマニュアルを作成したり、廃棄あるいは選書の基準を作ってきているというふうに理解しています。

つまり、順次進めてきており、いつまで続けていくかということについては、私は現場の状況等、判断がつかないので何とも言えませんけれども、そこは教育委員会のほうで、適切に、ノウハウの溜まり具合だとか、教育現場における図書館の利用というか、図書館の在り方ということなので、特別な知見だと思しますので、それをどういうふうに活用していくかというのは、時間軸も含めて教育委員会のほうで適切に判断をしてもらうことだというふうに理解しております。